

年頭のごあいさつ



東京ディスプレイ協同組合 理事長
田口徳久

新年おめでとうございます。

組合員の皆さまにおかれましては明るく健やかな年の始まりをお迎えのことと存じます。

一昨年、末に自民党政権が誕生しアベノミクス政策の3本の矢が放たれ、過度の円高が是正され、日経平均株価も倍近くに跳ね上がりました。

長かったトンネルもようやく抜けられるのか、という期待が高まって来た9月、さらに待望の2020年東京オリンピックの開催も決定し、いよいよデフレからの脱却が実現しそうな気配です。我が業界におきましても前向きな話をよく聞くようになりました。

近い将来の現場の人材不足を危惧する声まで出てきています。

世間は一寸先は闇と言われますので手放しで楽観はできませんが、いよいよ景気回復への足固めができてきたのかもしれない。

そのような明るい年明けですが、さらにおめでたい出来事がございます。

本年、我々の組合が設立50周年を迎えるのです。

今を去ること50年前、1964年2月16日に博展施設連盟と国際造形美術協会が合併して、東京展示造形業協同組合としてスタートしたのです。その後幾多の困難を先輩諸氏の皆さまの努力のおかげで乗り切り、記念の年を迎えることができました。

組合では昨年より理事を中心に「50周年プロジェクト」を立ち上げ、さらに式典・イベント・記念誌・表彰の委員会ごとに分かれ準備を進めております。

なかでもイベントは、我々の仕事を一般の方々に知っていただく、理解していただく、というコンセプトのもと、8月1日、2日、日比谷公園にてディスプレイの祭典を開催することになりました。第1回東京モーターショーが開かれた記念の地において、我が業界のお披露目ができることは大変有意義なことです。詳細はこれから詰めて参りますが、大きな規模のイベントになりそうです。組合員全員で力を合わせ、このイベントを成功させ、さらに皆様の結束を固めたいと思います。

記念すべき50周年を迎えた今年が組合にとっても、また、組合員の皆さまにとっても実り多き年になりますことを祈念して年頭のご挨拶とさせていただきます。



東デ協 東支部長
上田大平

新年、明けましておめでとうございます。東デ協の皆様におかれましては、お健やかに、そして「今年こそは」という前向きな心構えにて、新年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

やはり、2020年の東京オリンピックの開催は、当業界におきましても良いニュースであります。

そして、全ての企業において、とは言えませんが、対米ドルの為替レートが大きく円安に移ったことも、好材料であることは事実だろうと思います。

そのように、ようやくやるべき経済政策が実行されつつあるのですが、ここで改めて考慮しておくべきは、やはり企業運営は「自助努力」であり、たとえ今後どのような「期待はずれ」、「想定外」が起きたとしても、決して外部環境を理由にしない、という事だと思えます。

今年以降、我々の持てる力を十分に発揮できる場が、かなり出現して来るものと思えます。

それだけに、そして、それらは我々でなければ、具体的なものとして実現できないものであるだけに、真価が問われる年でもある、と思えます。

そして、東デ協のメンバーは、長年にわたる実績・経験・ノウハウを蓄積し、築き上げて来ています。

又、それらが今までの逆風の中で鍛え上げて来たものだけに、更に各企業、社員の皆様の奥深くまで行きわたっています。

今年におきましては、謙虚に、しかし自信を持って、皆様それぞれが大いに羽ばたく年となりますことを、ご祈念申し上げます。

本年も、組合の皆様よりのご支援を賜りますことを、何卒宜しくお願い申し上げます。



東デ協 西支部長
福島秀男

新年、明けましておめでとうございます。組合員の皆様方におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、本年は東デ協が50周年を迎える記念すべき年でもあります。この半世紀間、東デ協を起ち上げから現在に至るまで御尽力頂きました諸先輩方に敬意を表するとともに、日々の各組合員様方の御協力に厚く御礼を申し上げます。そして次の半世紀に向けて年明けとともに気持ちを新たにディスプレイ業の発展に貢献していけるよう努めて参りたいと思っております。

さて、近年のめまぐるしく変化してゆくこの情勢に我々ほどのように対応してゆかなければならないのでしょうか？ 只々時代の変化に流されてゆくだけでは将来もあったものではありません。時代の流れを先読みし、アグレッシブに攻めてゆくことも必要かと思われまます。昨年度の流行語にもなった「倍返し」のセリフやドラマからも見て取れる向上心をこれからの世代にも受け継いでゆかなければなりません。「倍返しだ」とは言っても復讐やお互いをつぶし合うことではありません。東デ協のような組合を通じてお互いの意見交換をして、時として本音を語り合い、協力し合いながら切磋琢磨してゆく中で飽くなき向上心を持つ人材を育ててゆくことが新しい時代を築く上での優先事項ではないでしょうか？

最後になりますが、本年度も組合員の皆様方のご理解とご協力の下、交流会や親睦会への多数のご参加、また会報への寄稿などをお願いしたいと思っております。本年度も何卒宜しくお願い申し上げます。



東デ協 南支部長
渋谷紀之

新年、おめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

今年、2014年はキティちゃん誕生40周年、東海道新幹線は開業50周年、テレビ東京も開局50周年、宝塚歌劇団に至っては100周年を迎えるそうです。

そして、我が東デ協も今年創立50周年を迎えます。これも組合員の皆様方の長きにわたるご支援の賜物と感謝申し上げますと共に先人の方々の情熱、努力も決して忘れてはならないとこれを機に深く心に刻みたい

いものです。

さて、昨年より景気が浮上し始めようやくディスプレイ業界にも明るい兆しが見えてまいりました。ただ国内外を取り巻く環境は複雑化を極め単純に喜んでばかりもいられない状況です。例を挙げればきりがありますが、こうした環境変化に柔軟に対応し続け、さらに発信する気概、風土がこの業界に根付いていたからこそ私たちは50周年を迎えることが出来たのではないのでしょうか。多くの産業が繁栄し衰退する中で、ディスプレイ業界の未来を考え、今後100周年、150周年を迎えるためにはこうした気概こそが今必要とされているのではないのでしょうか？

最後に南支部活動におきましては、支部員の皆様のご理解、ご支援に支えられ毎回多くのご参加をいただき本当にありがとうございます。今年も皆様方の期待に応えるべく知恵を絞ってまいりますのでよろしくお願い申し上げます。



東デ協 北支部長
日下部 肇

今年東デ協設立50周年を迎えます。記念の事業が幾つか計画されていますので、皆さんの積極的な参加、協力をお願いいたします。

50周年事業の基本コンセプトは「温故知新」ですが、私は記念事業のみならず、現在の東デ協の在り方や活動そのものについて、このコンセプトに則り見つめ直す良い節目と思っています。

50年前、当組合の設立に向けて活動した先輩諸兄の熱意とパワーには改めて敬意を表したいと思います。また、「本組合は組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上をはかることを目的として…」という設立の精神と目的にも全く異論を挟むものではありません。

しかしながら半世紀という時の経過の中で、我々を取りまく文化や社会、経済の仕組みは大きく変わり、組合員の業種業態も多様化し、ニーズも変質しています。

懐古主義的ノスタルジーに陥ることなく、設立の精神と目的に鑑み、現在の組合活動が現在の皆様のニーズに真にマッチしているか確認すべきではないでしょうか。

ちなみに私は社会性という概念を追加する必要があると思っています。

「昔は良かった、今はもっと良い」組合になるよう皆様の闊達なご意見をお待ちします。